

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

（令和4年12月9日 午後1時40分）

●議長（佐藤武雄） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告の4、片野良之議員。

1、町長の基本的政治姿勢について

議席番号5番、片野良之議員。

◆5番（片野良之） 議席番号5番、片野良之です。通告に従って質問いたしますが、項目が多いので、具体的に明瞭簡潔な答弁を求めます。昨日の議会再開においての町長あいさつの中で、4点の当面の目標を挙げられました。それらにそって質問の順番を若干入れ替えながら質問させていただきます。まずはコロナ禍からの再生を挙げられました。地域産業及び家庭生活の再生を図ると言われましたが、通告してます内容の町内企業への生業支援、農業支援、観光業支援について質問をいたします。昨日可決された一般会計補正予算第9号には、十分とは言えないまでも、農業支援、酪農への支援が盛り込まれていました。速やかな実施対応を心から願っております。しかし、町内企業に対する新たな支援、観光業への新たな支援というのが、残念ながら見当たりませんでした。早急な追加の支援策を講じる必要性を感じますが、これらは今後どのようなスケジュールで構築される予定なのか、町長の思い、それから担当課長にそれぞれ答弁を求めたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今の片野議員からのご質問にお答えしたいと思います。まず観光業への支援でございますが、これに関しましては、誘客宣伝事業に始まりまして、インバウンド事業や癒しの森推進事業、観光関連団体への補助などを実施しておりますが、引き続きこの支援内容を強化してまいりたいと考えております。またコロナ禍によりまして、野外のアクティビティの人气が高まっております。しなの鉄道では沿線市町村とタイアップして、サイクルトレインの実証実験事業も実施したところであります。また、飯山市をはじめ、信越9市町村で構成する広域連携によりますサイクル事業の充実も進めてきておりまして、さらに取り組んでいく必要があると感じております。また、健康増進、健康志向への高まりによりまして、癒しの森事業も団体のみならず、個人からも注目されておりますので、全国の中でも先進地と言われておりますこの事業、癒しの森事業をさらに発展させるため、官民連携いたしまして取り組みを進めて強化してまいりたいと思っております。以上です。

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

●議長（佐藤武雄） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤巳希夫） はい。片野議員さんのご質問でございますが、農業者支援につきましては、昨日補正予算の可決をいただいたところです。また、事業者向けの支援でございますが、今現在行っておりまして、12月末というスケジュールで、今始まっているところです。法人の方に10万円。個人の方に5万円というようなことで、受付を始めたところでございますが、毎日郵送で受付けているんですが、封筒がこのくらいの量が届くというようなことで、今事務処理を進めて、支援金をなるべく早くお手元に届けたいということで進めているところです。以上です。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） 観光業、それから地元への企業等への事業者への支援、今やっておられるのは、防災無線で毎日のように聞こえております。私が今回ここで言いたかったのは、さらにその追加の、今やっているのは、今ちょうど進んでいるところなのは理解しているんですが、本当に今、それぞれの事業者さん大変な思いで営業をされています。ですから、これがやったから、もうしばらくはないということはないような継続した支援を構築していただきたいという思いから、このように先ほどのように発言をさせていただきました。また、観光業の方にしても、いろいろ今取り組んでいるもの、これまで取り組んできたもの、たくさんあるんですが、特にこれからスキーシーズンが始まります。これで本当にお客さんがたくさん来てくれて、観光業だけではなく地元のそれぞれの産業の方々、それぞれが恩恵を受けられるような形になれば理想なんですが、コロナの第8波、これもやはりどうしても不安がぬぐえない部分がありますので、そういった中でも地元の事業者さんたちが安心して、生業を営んでいけるような行政の支援をさらに充実させていただきたいと思っております。それでこの支援をする上で、どうしても財政的なものが問題となってきます。これは町独自で、とにかく早急にやらなければいけないことというのもこれから出てくると思います。ただそれ以外にも、国や県に働きかけて予算を引っ張ってくるという作業も、もっと大きくウエイトが占めてくるんじゃないかと思うんですが、そういった面、それぞれの担当の課に丸投げと言ったらおかしいんですが、おっかぶせてしまうのではなく、町長が先頭に立って国や県に物申しながら予算を引っ張ってくるような、そういった姿勢を見せていただきたいんですが、そのへん思いをお聞かせください。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただいまの片野議員のおっしゃられたとおり、私どこへでも参りたいと思っております。まずその前段で商工会の皆さん、農協の皆さんからよく話を聞いて要望する内容を整理した上で対応したいと思っておりますので、よろしく願いいた

します。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） 以前と比べてコロナになってから、住民の皆さん方との懇談という場がかなり限られてしまっています。ぜひ、あらゆる機会を通じて住民の方々からの意見を吸い上げていただいて、ぜひ生かしていただきたいと私も心から願っております。次に二つ目として町長が言われた、子育て支援と高齢者福祉の充実ということを挙げられております。これに沿って少子高齢化対策、移住定住への施策、住民要求への対応、住民福祉の向上への取組についてお伺いしたいと思います。これまでも質問された同僚議員からの質問とかなり重なる部分があって、重複する部分があるんですが、ぜひ面倒くさがらずにお答えいただきたいと思います。まず少子高齢化、移住定住への取組について、これまでの取組以外に新たな取組、何かお考えでしょうか。これは町長と担当課長の方にそれぞれお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 片野議員がおっしゃられるとおり、少子高齢化、この課題については解決に導くというのは、大変難しい面もあろうかと思えます。しかしながらこれを放置することも、またできないと考えておまして、午前中にもお話があったかと思えますが、きめ細かい支援策を継続的にできる体制、そしてまたお子さんだけでなく、子育て世代の皆さんにも喜んでもらえるような施策、組み立てをしまいたいと思います。今後ともいろいろな場面で、いろいろな方々のご意見を伺う中で、具体的な内容を整理していきたいと思えます。詳細については、担当課長の方から説明させていただきます。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） はい。私の方からお答えをさせていただきます。少子化対策につきましては、結婚、出産、子育てと安心して産み育てられる環境づくりを推進していかなければならないというような事で、きめ細かな子育て支援と支援策の強化に努めてまいります。また、あと長期振興計画にもございますけれども、子育てと仕事が両立できる環境づくりも強化していく必要があると考えております。先ほどの質問の中でも、お答えをさせていただいたのですが、出産子育て応援交付金と言いますか、そういう事業も国の方から来ております。そんな中で、子育て支援については、重要な位置づけでございますので、力を入れて進めてまいりたいと考えてございます。また、高齢化につきましては、避けて通れる道ではございません。そんな中で、元気な高齢者にたくさんなっていただきたいわけでございますが、健康づくりやそういった事業、それから生きがい作りに取り組んでいただくことで、多くの元気な高齢者に地域の担い手として

活躍していただくことが期待されます。また、医療や介護の充実、住宅福祉サービスや地域包括ケアシステムの運営など、高齢者の状態に合わせた支援にも努めていきたいと考えています。高齢者福祉の充実には、住民同士助け合える関係の構築が大切と考えています。そんな中で、効果的な取り組みを講じてまいりたいと考えてございます。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） はい。移住定住施策の関係で、私の方からお答えしたいと思えます。午前中同僚議員さんからのご質問に町長が答えたとおりでございますが、これまでの移住定住の取組に加えまして、信濃町の強みであります合宿とか観光業、そういうものに通じた交流人口の増加。また関係人口と呼ばれています別荘をお持ちの方とか出身者の方、それでなおさら町へ関わりたいと思っている方の、こういう人達のつながりを拡大していきたいと思っておりますので、これからの町長の施策と詰めを合わせる中で進めてまいりたいと考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） その中で町のホームページには、子育てにやさしい町といううたい文句があります。まだまだこれは改善の余地が多いと私は思っているのですが、金額が大きい少ないという部分は別にしておいて、こまめに継続してつなげていくということが、私は大事じゃないかなと思うんですね。それと移住定住の中では、同じような取組をやっているほかの自治体、そういった所との差別化を図るためにも、何か目玉になるようなものを、これからきちんと考えて作っていかなくてはいけないじゃないかと思うんですが、その辺は今後、新しい目玉になるようなものを構築していく予定があるのかどうか教えていただきたいと思えます。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 今後、新しい観点で事業を検討したらどうかというお話です。ひとつ私が考えておりますのが、民間の方々に住宅を造っていただき、アパートのようなものを作っていただく事業、これがもうすでにあるんですが、昨年古間地区で8戸ほどアパートを新設していただいたところ、すぐに入居されまして満室になったというお話をお聞きしました。これに対して建設費の20パーセントだったと思えますが、町の方でもお手伝いするというような事業だったんですが、そのような事案を見ますと、そういったニーズが極めて高いんじゃないかと感じました。また町内の皆さんからは、アパートの新設だけではなく、住宅のリフォームと言いますか、そういったものにも、この事業を当てられないかというようなご相談もあったそうです。そういうようなことで、ぜひ若者、若い世代の方々に入居いただけるような、そういうアパート、住宅の整備をさ

らに充実させていくことができるのではないかと考えております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 片野議員。

◆5番(片野良之) ありがとうございます。次に保育料や学校給食費の今後の展望、18歳までの医療費や通学定期券への補助の問題ということも挙げられていました。すでにそれぞれ行われていることではあるんですが、まだまだ改善できるのではないかと期待しています。今、いつまで続くか見通せない物価高騰の中で、住民生活は厳しい状態が続いています。この町長がおっしゃられた保育園料、これは通常保育の子ども達の保育料のことなのか、未満児の方の問題なのか、そのへんがちょっと説明というか、お話の中では組み取れなかったものですから、そのへんをまたこの中で教えていただければと思います。それから18歳までの医療費、これは信濃町はわりと先進的に早くやっています。ただ、まだ病院窓口での完全無料化というのには至っていません。それから学校給食費の無料化、通学定期券の補助の対象拡大増額、こういったものは子育て世帯からすると切実な願いでもあります。それらの問題をそれぞれどういうふうに進めて行くか、特に学校給食費の無料化、これは町単でできるものでは、私はないんじゃないかなと思います。実際県内でも22の自治体が、町単市単村単含めて既にやっています、この秋から。ですがやはりこれは県からの補助金も引っ張ってきて活用しないと、やはり苦しい部分は出てくると思うんですね。そういったところでの取組をどのように行っていくか、町長の思い、それから担当部署の方での展望、そういったものをお聞かせいただきたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 外谷場教育次長。

■教育次長(外谷場佳子) はい。保育料の制度的なことのお話がありましたので、私からご説明をさせていただきたいと思います。保育料につきましては、年長児、年中児、年少児、いわゆる3歳以上のお子さんについては、国の制度改正で今保育料はいただいておりません。いただいているのは、延長保育とか、そういった特別な時間帯の部分だけいただいておりますので、現在保育料をいただいているお子さん、対象の児童、園児ですかね。それは3歳未満の、いわゆる未満児と呼ばれているお子さんだけでございます。また、軽減制度も利用しておりますので、お子さんが3人、第一子が無償、これは3歳以上であれば無償ですけど、基本的には第二子半額、第三子無料ということで、保育園の中に3人いれば、そういった形で、無償、半額、無料という形になります。ただ、これは2番目のお子さんが、もし3歳以上であれば、基本的には無償という形になっておりますので、今現在保育料としていただいているのは、未満児ということで、という前提でお話を進めさせていただければ良いのかなと思います。以上です。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

■町長（鈴木文雄） 学校の給食費について、私の方からちょっと現時点で考えている内容を、ちょっとお話させていただきたいと思います。給食費、年間6万とかという数字になろうかと思えますけれども、これを何とか親御さんの負担を軽くしたいというつもりでおりまして、公約の方にも挙げさせていただきました。なので、これはなんとか実現させたいと考えておりますが、議員のおっしゃられるように財源をどういうふうに確保していくのか、このへんについては担当の課、そしてまた県の方とも良く相談して、継続的に安定した財源が確保できるように努めてまいりたいと思っております。その時期なんです、やはり昨今の町の財政状況を鑑みますと、一気に親御さんの負担をゼロにするというのは難しいかなと思っております、少し時間がかかるかもしれませんが、段階的に対応できればなど、現時点では考えております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） ぜひ学校給食費の無料化、これは私たちもそう願っております、県に自治体への協力をするようにという署名運動を、今やっております。お互いに手を取り合って頑張っていきたいと思っておりますので、お互いに協力していきながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。次に地方自治における本旨というのは、住民福祉の向上です。これはもう言われるまでもないことなのですが、この本旨にのっとり、来年度に練られる次の福祉計画、これにどのように取り組んでいかれるのかをお聞きしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 自治体の本旨である住民福祉への取組ということのご質問だと思います。具体的になかなかお答えするのは今難しいんですけれども、住民福祉に関わる各種課題を、課題の解決に導くため、既存の長期振興計画などの方向性を維持しながら、総合的な対策を進めて行く必要があるのだと考えています。住民福祉の向上と申しますと全体につながりますので、うちの福祉だけではないんですけれども、うちの福祉の立場から申し上げますと、障がい者支援でありますとか、生活困窮者や一人親家庭の相談就労支援等、そういった生活弱者に対する支援については、継続しながらも、できれば強化をして進めていきたいというところでございます。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） コロナ禍の住民福祉という部分での中の一つの問題だと思うんですが、国の介護保険の見直しについて、どのように考えられているのかをお聞きしたいのですが、国が年内にも見直し議論をまとめようとしている。この介護保険の見直しの問題なんです、問題点として福祉用具の貸与制度の購入化への転換、要介護1、2の生

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

活補助の保険給付除外、利用者負担の増、ケアプランの有料化、老健施設などの多床室の室料有料化、そういったものが問題になるのではないかと考えられるのですが、そのへん町長そして担当部署の方では、どのように考えていらっしゃるのかを伺いたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今の片野議員のご質問ですけれども、非常に細かいところまで言及されておりまして、私、現時点でお答えできませんので、大変申し訳ありませんが、担当課長から回答させていただきたいかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） 介護保険のその制度の改革の関係については、本議会に陳情されている内容と同様かなと思います。そんな中で通告には、介護の取組と書かれているだけなので、そこまで細かい資料は持ち合わせていませんので、ここで具体的なことはお答えできませんけれども、基本的に介護保険制度の趣旨にのっとりまして、介護予防、生活支援事業それから通所訪問介護、施設サービスの充実に努めてまいるとともに、その家族介護者の支援も含めまして、そういった相談支援にも努めてまいりたいと考えてございます。介護人材の確保が一番大きな課題でありまして、その中で今回の改革も、いわゆる介護保険料が少し負担が大きくなるのか、そのいわゆる基準と言いますか、基準が少し強化されるのかという、そういうことだと思っておりますけれども、そういった課題もあると思えます。そんな中で今年度の9月までは、国は補助金を投じて、介護人材のいわゆる人件費を上げましょう、引き上げましょうということでやってきました。10月以降は、介護保険料の中で、ある程度負担をせざるを得ないというか、そういう状況なのかなと思います。いずれにしましても、この第8期の介護保険事業を乗り切って、第9期に向けて準備を進めて行かなくてはいけないのが来年になります。町としましては、施設整備で介護療養病床も令和6年3月に廃止になりますし、その中で看護小規模多機能型居宅介護、それから特定施設入居者生活介護施設につきましては、令和5年中に開所できる予定で、そういった整備も民間の皆さんにご協力をいただいて、誘致をして進めているところでございます。以上でございます。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） 先ほど申し上げたこの見直しの問題点、これに対して6日の長野県議会の一般質問でも、この問題が取り上げられています。そしてその中で、福田健康福祉部長は、国庫負担の増額を直接国に要求していると述べています。サービスの利用が阻害されないよう配慮していく必要があるとも答えられています。ぜひこの信濃町から

も、町単独なのか市町村長会の方からなのかは別にしまして、国にきちんとした資金と言いますか、財源を分配投入するように、そしてまたこのままだと要介護1、2の方々が切り捨てられて行く流れになっていますので、これを止める方向で、この1、2の方々を取り残すような形になると、悪化していきなりもう3、4というふうに、余計に介護費用が掛かってくる、人材が必要になってくるということも想定されます。ぜひそういうことが起こらないように、県とも歩調を合わせながら国に要求要望を行っていただきたいと思います。続きまして、地域固有の持ち味を生かす施策の充実ということも、町長は挙げられています。これは観光業の支援にも通じる部分ですので、改めて先ほどの問題とも重複しますが質問いたします。地域固有の持ち味と考えた時に、私はこの自然環境だけではなくて、この信濃町にある信越病院、そして隣の飯綱病院、それから妙高の妙高高原病院でしたっけ、妙高病院ですかね。この三つの病院が、ほんとにわずかな時間の中で存在します。私が以前ホテルに勤めていた時に、全国のスキー修学旅行の誘致に歩いている中で、これだけきちんとした病院がすぐ近くにあるというのは、全国でも本当に珍しいことだそうです。今だいぶ衰退している部分はありますが、そういったこれまでの着目点とは違った着目点を持って、観光の誘致であったり、企業の誘致であったり、住民の誘致、そういったものに活用できないかと思うんですが、そのへんいかがでしょうか。これは町長の思いで良いのでお答えください。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） はい。昨日ご説明させていただきました所信の一部に、地域固有の持ち味を生かす施策の充実ということを挙げさせていただきました。これはこの後段にもありますように、景観だけではなく地域がこれまで育てまいりました歴史や文化、そしてまた今議員さんおっしゃられたような社会的な医療施設の配置まで含めた地域の持ち味というものがあるって、それを存分に生かしたいという意味で書かせていただいたところです。私思います、国立公園。全国で33か所の指定であります、そのど真ん中に信濃町があるということ、私ども誇りに思わなければいけないし、そのことを持ち味、大きな持ち味の中心として、みんなが自覚するということが大きな力になるのではないかなと思っております。そういった意味で、自然・景観・文化・歴史、いろいろなものを混ぜこぜにした一つのエリアとして、それぞれの魅力を存分に発揮できるような形、そういったものをこれから目指してまいりたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） ありがとうございます。ぜひこれまでの考え方にとらわれない広い視野で、点だけでなく面でのこの町含めたこの地域が活性化できるように、ご尽力いただきたいと思います。次に医療体制の強化について、という部分についてお聞きしたいんですが、これで信越病院も新しく造られるようになります。旧柏原小学校の跡地、本

当に建物がなくなって景色が変わってしまっていて、ちょっとびっくりしながら先日見ていたんですが、医療体制の強化、これは先ほど担当の柄澤課長もおっしゃっていましたが、医療介護福祉それぞれ切り離すことができない関係性のある分野です。医療体制の強化という中で、介護や福祉を取り混ぜた取組、これから先さらに重要度を増してくると思うんですが、何か新しく考えられていることはありますでしょうか。担当課長かな、お願いします。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） はい。医療の関係のご質問がございましたので、私の方からご回答を申し上げます。今議員さんがおっしゃられましたように、新病院につきましては解体工事を進めているところでございます。令和7年度の開設に向けて、令和5年度は新しい着工の年になりますので、建設の契約に向けて適切に事業を進めたいとは考えております。また新しい面で、医療関係のことがあるかとのご質問でございますが、着実に今の病院の経営の部分については、経営強化を進めていかなければならないと考えておまして、国の示す経営改善、以前は経営改革というふうに名前あったのですが、改めて経営強化プランということで、経営強化について、公立病院の経営強化について、ガイドラインが示されました。それに基づいて今の病院の新しい病院に移っても、経営が成り立つような形で着実に、今の課題を進めたい、課題解決に向けて進めたいと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） ぜひ、新しい病院ができるのに合わせて福祉の方とも連携をとりながら、問題解決行いながら進めていっていただきたいと思います。次に病院や上下水道の企業会計についてお聞きしたいんですが、それぞれ苦しい経営が続いています。この中で病院に関しましては、外来が増えているものの入院が減っているために利益が減ってきているというのが、昨日話されました。病院利用が減っているということは、病床利用が減っているということは重症患者が少なくなったともとれるので、ある意味良いのかなとも思うのですが、病院の経営面から考えれば、やはり早急な対策が必要になってくると感じます。そこで、今後どのようにして経営の健全化を図っていくのかを、今お答えいただいたものとたぶん同じになってしまうと思うんですが、もう一度聞かせてください。事務長お願いいたします。

●議長（佐藤武雄） 丸山病院事務長。

■病院事務長（丸山茂幸） はい。病院の経営につきましてはいろいろな課題がございますが、令和3年度の決算状況が5546万円ほど純利益を計上させていただいております。

理由としましては、新型コロナワクチンの接種を始めとする予防接種の委託費ならびに不採算地区の医療に対する財政措置の拡充によるものということでそれが要因ですので、直接医療体制が改善されたとは受け取ってはございません。むしろ現在、医療費の収支比率は、総収入に対する医業収益、本業の収益ですね。それが約79パーセントということで、低いと見ています。その中でまた経費については、人件費が総収入、医業収入に対する人件費が76パーセントで、これは逆に高いと考えています。こういう状況の中で、これから病院の建設が進むわけですが、病院のコストにつきましても、あらためて試算を繰り返しているところがございます。やはり物価上昇に応じて、病院経費に関わる物価の影響はかなり大きいと考えておりまして、その部分も含めまして、ただただコストが上昇するから事業費が上がるというわけではなくて、建設費の見直しも同時にかけているところがございます。その中で、今後の病院の経営の中で改善していかななくては、端の方針として、短い中ではコストの削減、今申し上げました人件費の関係、あと収益につきましても、新しい病院になりましたら、新しい病院に関わる加算の点数が取れるという部分もでございます。今おっしゃられました外来の患者様につきましても、かなり増えているということも、特色もございますので、そういう面では経営の方の順時の改善を図っていければと考えています。今後も社会情勢がどうなるかという見通しが見えない中ですが、国や県の情報を適切に受けて、課題解決、病院の経営の改善は適切に進めていければなと考えております。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） ありがとうございます。住民の大切な病院ですので、ぜひ改善しながら進めて行っていただいて、長くこの町に病院が存続するようにご尽力いただきたいと思っております。次に下水道事業に関してなんですが、昨日の補正予算の資料の中のキャッシュフローを見ていて、来年度の資金ショートが懸念されると感じたんですが、どのような今後の対応を考えられているのかを伺いたいと思っております。使用料金の増額は、現在の物価高騰で実質賃金下がっている現状の中では、大変住民にとって酷な話だと思っております。繰入金を増額するなど、町でできる対応も求めますが、来年度の予算編成をこれからやっていかれる中で、ぜひそのへんを含めた検討をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課。

■建設水道課長（海口泰幸） はい。ただ今、片野議員の方からご質問があった件でございますけれども、こちらの課といたしましては、上水道下水道、切り離して考えるわけにもなかなか行かない部分でありますけれども、こちらの方につきましては、上水道下水道の運営方針につきましては、持続可能な事業運営という事をベースに今までしてきましたし、今後もしていく予定でございます。それでそのベースになるものとしたしま

して、上水道下水道の事業の経営戦略というものがございます。これはホームページの方を見ていただければ細かに出ておりますので、承知していただけるかと思うんですけども。それに基づきまして事業をしているわけなんですけど、令和4年の1月25日付けで、総務省の方からさらに経営戦略の改定推進について、という通知文書がこちらの方にまいりました。要は何を言っているかということなんですけど、今後の人口減少等を加味した料金収入の的確な反映ですとか、あと施設の老朽化を踏まえた将来における更新費用の的確な把握などがこれに当たるわけですけども、これを見直すことによって、経営戦略を令和7年までに行いなさいというような形で進んでおります。当然、町の方もそれに向けて現在進んでいる状況でございます。それから先ほど片野議員の方でもおっしゃられたんですけど、決算の関係のお話が出ました。上水道の方につきましては、経費回収率が103.7パーセントという、表面上だけ見ると何とか計算上は良いかなというふうには見えるんですけども、これにつきましては給水人口も年々減少しておりますし、施設も老朽化しているということで、それもちょっと考えていかなければいけないなというふうな部分が、問題としてございます。それから、ご質問の元になっております下水道の事業でございます。こちらにつきましては、経費回収率が80.7パーセントということでございまして、一般会計からの繰入金に頼った状況となっております、大変厳しい状況はまだ改善されておられません。ですので、今後投資それから財政計画の見直しを行うなどして、経営戦略の改定を通じてこれから進めて行きたいと考えております。これをベースに置く中で、来年度予算の方につきましても、なるべく内容を的確に把握する中で予算編成をさせていただければありがたいかなと思っております。以上でございます。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） ぜひ、長く使える上下水道であってほしい。そしてなるべく料金は上げないでいただきたいという住民の思いを代弁してお伝えしておきます。最後の質問に移りますが、この現在の物価高騰、この中での住民への方々への支援、そして福祉灯油に関して質問させていただきます。事業者などへの支援は、防災無線でも先ほどお話しに少し出ましたけれども、頻繁にされてきて、ただ住民個人への支援、これがまたさらに必要になってくるのではないかと思います。以前全世帯に配られたクーポンなどは、町民の皆さんから大変喜ばれました。いつでもこれを出せというわけではないんですけど、これから迎える厳しい冬を安心して乗り切れるような、何か支援策を今お考えでしょうか。まずそちらから伺いたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長（柄澤 豊） はい。私の方からお答えをさせていただきます。支援策につきましては、物価高騰、電力ガスの関係の国の補助事業がございまして、それらにつ

きましては早急に今支給をする予定でございます。そんな中で、今議員さんの質問の中で、福祉灯油のお話がありました。これにつきましては、行政用語と申しますか、町の事業名としましては、生活扶助事業ということで事業建てをさせていただいて、対象世帯に支援をさせていただいてきたところでございます。令和3年度、前年の冬場につきましては、燃料費が例年に比ばまして著しく高騰いたしましたので、冬期生活扶助要綱によりまして、町民税非課税の内、福祉医療需給者、ひとり親世帯であるとか、障害者手帳をお持ちの方であるとかそういった世帯。それから障害基礎年金受給者、要介護区分4、5の方、生活保護世帯、70歳以上の高齢者世帯等、該当世帯に8000円を支給をさせていただきました。十分な額ではないと思えますけれども、家計の一助となればという事で実施をさせていただきました。結果的に昨年冬については、特別交付税の該当にもなって町の負担も軽減されました。令和4年度に入っても燃料費は下がらず、電気料やガス代も含めて、物価高騰が顕著でありましたので、やはり低所得者世帯の家計の一助となればということで、物価高騰等生活扶助事業という名称で、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、1万6000円を支給をさせていただきました。該当世帯は冬季生活扶助事業の該当世帯と同様といたしました。この冬ですね、議員さんはこの冬的生活扶助事業はどうするのかと、こういうご質問だと思います。国が電力ガス食料品価格高騰緊急支援給付金と銘打って、非課税世帯に5万円を支給する事業を立ち上げていますので、この冬は町独自としては冬期生活扶助事業は実施しない予定でございます。国事業は対象世帯が、非課税世帯全てであり、生活扶助を行う場合の対象世帯が中に含まれておりますので、ご理解をいただきたいと思えます。さらに、県が所得割非課税、言い換えれば均等割のみ課税の世帯にも3万円を支給する事業というのを予算化しており、私どもの方も補正予算をお願いしたところでございますが実施をします。その準備も進めておまして、支給に関わる事務は町が行うことになるんですけれども、国の5万円につきましては、年内支給の予定で今盛んに事務を進めておりますので、お願いをいたします。県の3万円も、今やっとなし申請し、交付決定がきまして、これからになります。年明けになりますけれども、早めに支給をする予定で準備を進めているところでございますので、ご理解をいただきたいと思えます。

●議長（佐藤武雄） 片野議員。

◆5番（片野良之） ありがとうございます。今の事業内容の5万円と3万円の部分、これがいつ来るのかというのがはっきり分かってなかったの。あと福祉灯油110円をラインとして、それを超えるようであればこれまで実施していただきました。今週町内でのリッター当たりは112円なので、今回の補正予算に入っていなかったの、これはどうしても言わなければと言わせていただきましたが、そういった形で福祉灯油に代わる形、さらに対象が拡大されたものが今準備中ということですので、それに期待をしながら、ぜひ本当に、ここ何日か昼間は日が差すと穏やかで暖かいのですが、朝晩は冷え込んでおりますし、雪も朝になると白くなっているというのが増えてきています。もう

令和4年第420回信濃町議会定例会 12月会議 会議録（2日目）

まもなく本格的な冬が始まりますので、なるべく早いうちに生活に不安を抱える皆さんが少しでも安心して冬を迎えられるように、越せるようにご努力いただきたいと思います。これをもって私の一般質問を終わりとしたいと思います。

- 議長（佐藤武雄） 以上で、片野良之議員の一般質問を終わります。この際、2時45分まで休憩といたします。

（終了 午後2時34分）